

意見提出者	個人
1. 項目	パスワードの脆弱性解決
2. 既存の制度・規制等によってICT利活用が阻害されている事例・状況	<p>記憶照合の代表的手法であるパスワードには「覚え易く思い出し易いパスワードは破られ易く、破られ難いパスワードは覚え難い」という脆弱性があるのは周知の事実です。この脆弱性解決のためにこれまで提唱されてきた対策は、メモを禁じたうえで、破られ難い、強いパスワードを、定期的に変更して使うこと、というものであり、きわめて実効性の乏しいものでした。「長大・ランダム・無機質」であることが求められる強いパスワードを、しかも複数個覚えるのは極めて困難です。</p> <p>パスワードの脆弱性問題は重要なものとこれまでも認識されてはいたものの今直ちに解決しなければならないという切迫したテーマとしては扱われず、これまでズルズルと先送りされてきました。しかし、今は一人の利用者がパスワードでアクセスするアカウントが急増してきたこととそうしたアクセスに使用する端末を屋外で使うケースが急増してきたことから、ICT利を活用するためには最早これ以上の先送りは不可能になってきているのではないかと考えられます。</p>
3. ICT利活用を阻害する制度・規制等の根拠	—
4. ICT利活用を阻害する制度・規制等の見直しの方向性についての提案	<p>どんな素晴らしいシステムを提供しても、文字しか使えない従来型のパスワードでは安心して使うことはできません。ICT利活用を現実的なものとするためにはパスワードの脆弱性を解決すべく、人間の記憶能力にあったパスワードシステムを開発、提供することが不可欠です。</p> <p>パスワードの脆弱性を解決するには、人間の記憶の特性に沿って、パスワードの選択肢を増やさねばなりません。認知心理学の知見から、意味をもたない単なる記号を記憶し再生するよりも、画像を記憶し再認するほうが記憶の負担が軽減できることは明らかです。さらに、自分の経験にかかわるエピソード性が加わった画像を使えば、長期間にわたる持続的な記憶とすることもたやすくなります。従って、ICT利活用に当たっては、文字だけでなく画像なども使えるようにパスワードを拡張することが有効ではないかと考えるものです。</p>